

飯山市本町商店街における商店経営の特徴と活性化の取り組み

— 北陸新幹線開通との関係に着目して —

橋爪孝介・中川紗智・金子紗恵
周 安琪・劉 斐・呂 曉凱

本研究は飯山市の本町商店街を事例に、商店経営の特徴と、高速交通網整備を契機とした商店街活性化の取り組みを明らかにした。本町商店街は中世の城下町を起源とし、周辺農村に最寄品や買回り品を供給する商店街として発展してきた。しかしバブル景気の崩壊と大型店の出店により商店経営は厳しくなり、中核的集客施設が閉店することで商店街の求心力は低下した。これに対し個人経営店舗は柔軟に販売品目を変えながら商店経営を継続し、常連客の割合が高い安定した経営基盤を維持してきたが、常連客の高齢化が進んでおり、一部で観光者を誘致する取り組みが行われている。また商店街では新幹線開通を前に中核的集客施設を再興し、景観形成を行うなどハード整備を行い、催事の開催による商業・観光振興といったソフト整備も進め、更には大学と連携した地域活性化事業も展開してきた。今後は日常的に観光者を商店街に誘引し、各商店が観光者の受け入れ体制を整えることが必要である。

キーワード：中心商店街、北陸新幹線、観光者、活性化、飯山市

I はじめに

I-1 研究の背景

日本の地方都市では、専門業種に特化した個人経営店舗を主とする商店街が中心市街地を形成し、都市の「顔」として発達してきた。しかし、モータリゼーションの進展は商業空間の郊外移転を招来し、1990年代の大規模小売店舗法の運用緩和に伴う大規模小売店舗（以下、「大型店」とする）の店舗数および店舗面積の拡大は商店街の顧客を奪い、商店街の空洞化を引き起こした。商店街内部においても、経営者の高齢化と後継者の不在、商圈人口の縮小、市町村の広域合併による行政機能の集約、中核的集客施設の消失による商業吸引力の低下などの要因で閉店に追い込まれる店舗が後を絶たず、いわゆる「シャッター通り」と化した商店街が日本各地に出現した。こうした問題はアメリカやイギリスでもみられ、商店街再生

に成功した地域の事例がいくつか報告されている（例えば池澤，2002；足立，2013）。日本においても中小企業庁が「がんばる商店街77選」（2006年）、「新・がんばる商店街77選」（2009年）を選定し全国の商店街活性化の取り組みを紹介しているものの、それを実現する「特効薬」は発見されておらず、未だに多くの商店街が右往左往する状態が続いている。

地理学において、商業地域の形態である商店街は伝統的に研究対象として扱われ、小売業の分布、商業地域の類型化、商業地域構造とその変化の解明が進められてきた（根田，1999）。例えば長期に渡り中心商業地の研究を行ってきた杉村（2000）は、遊技場や鉄道駅、歩行者通行量、路線価格などの指標を用いて中心商業地の内部構造とその変容を解明している。1990年代以降は上述のような商業環境の変化を反映し、地方都市の商店街の維持に関心が払われ、商店経営者の高い経

営意識（五十嵐，1996）や仲間型組織による柔軟な商店街運営（安倉，2007）の重要性が主張されてきた。福井ほか（2016）でも商店街組織に着目し，組織の世代交代を進め，新規事業を創出することで地域住民の生活を支援する商業的・社会的機能を再構築したことを解明した。

本研究の対象地域である長野県飯山市においても，全国でチェーン展開する大型店が国道バイパス沿線に出店し，中心商店街に立地していた大型店が撤退するなど全国の地方都市にみられる課題を共有し，その解決は喫緊の課題となっている。一方で，飯山市では高速道路や新幹線が整備されたことで東京などの大都市との時間距離が短縮され，今後の発展可能性を秘めている。高速交通網の整備と商店街の関係については，香川県坂出市（杉村，2000）や長野県佐久市（福井ほか，2016）における商業地域研究で若干言及されているものの，統計数値からの考察にとどまり，定性的な研究は不足しているといえる。

そこで本研究では，長野県飯山市の中心商店街，特に法人格を有する商店街組織のある飯山市本町商店街（以下，「本町商店街」とする¹⁾）を事例として，高速交通網の整備された地方都市における商店街の個人経営店舗の経営の特徴と，高速交通網の整備を契機としてどのように商店街活性化を図ろうとしているのかを明らかにすることを目的とする。その際に個人経営店舗の経営状況と商店街組織によるハード面とソフト面の双方からの取り組みに着目し，高速交通網との関連を議論する。

本研究は5つの章で構成する。Ⅱでは飯山市中心市街地全体における歴史の変遷と，飯山市における高速交通網のうち北陸新幹線の整備経緯や地域の期待について述べる。Ⅲでは本町商店街について土地利用と個人経営店舗の経営状況から現在の商店街経営の特徴を，個別店舗の事例を交えて論じる。ⅣではⅢを踏まえて商店街における活性化の取り組みについて，ハードとソフトの両面から記述する。Ⅴでは以上の知見をもとに地方都市における商店街経営の特徴と商店街活性化の取り組みについて高速交通網と関連付けて考察し，結語とする。

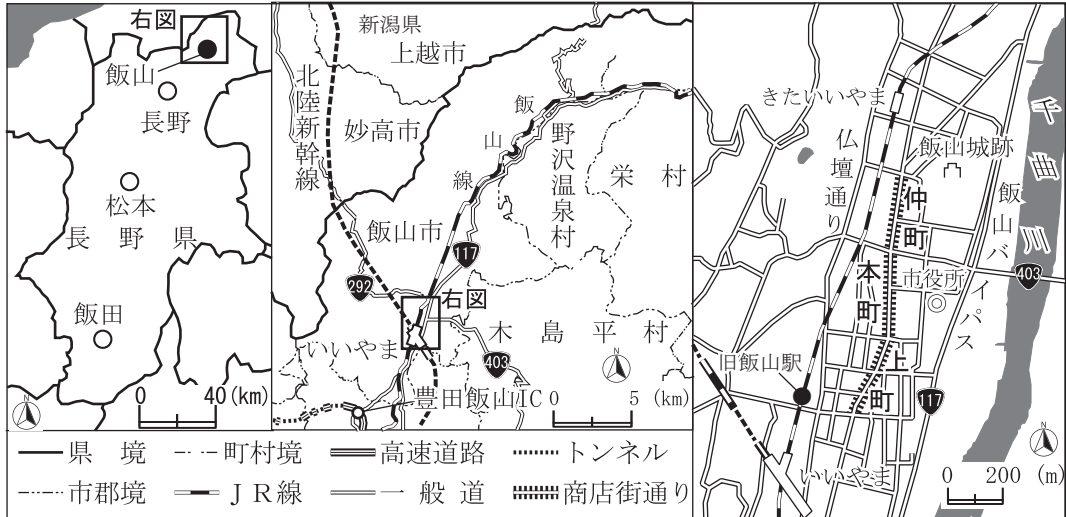
1-2 研究対象地域の概要

飯山市は長野県北信地方の最北部を占める飯水地方の西部に位置する面積202.43km²の市である。年平均気温は11.0℃，年間降水量は1,446.4mmであり，冬季には日本海からの季節風が最大で149cmの積雪をもたらす長野県有数の豪雪地帯である²⁾。2016年12月現在の人口は20,880人と長野県で最小の市であり，1954年の市制施行以来漸減傾向にある。

飯水地方の主産業は稲作やエノキタケ，アスパラガス栽培に代表される農業であり（内山，2009），山間地ではスキー観光やグリーンツーリズムもみられる（片柳，2009）。交通面では，1997年に上信越自動車道豊田飯山インターチェンジが，飯山市に隣接する豊田村（現在の中野市）に設置され，2015年には北陸新幹線の長野－金沢間延伸開業により飯山駅への新幹線の乗り入れが開始され，高速交通網が整っている。

飯山市中心市街地は千曲川が形成した飯山盆地の南部に位置し，飯水地方における行政，経済，文化の中心地として機能する。東端に千曲川，西端に寺社の集中する愛宕町の丘陵地を控えるため，南北に細長い市街地が形成された（第1図）。道路網も南北方向の幹線が発達し，東側から順に国道117号飯山バイパス，商店街通り，仏壇通りの3本の幹線道路³⁾が市街地を通る。飯山市の中心商店街は北から順に仲町商店街，本町商店街，上町商店街の3つで構成され，各商店街の業種構成に大きな差異はなく，最寄品や買回り品を扱うおよそ80の店舗が軒を連ねている。このうち本町商店街（写真1）は飯山市本町商店街協同組合（以下，「本町商店街組合」とする）を結成し，六斎市の開催などを通して商店街活性化に向けたさまざまな取り組みを行っている。

2015年度長野県商圈調査によれば，飯山市の1次商圈（以下，「飯山商圈」とする）は飯水地方を構成する飯山市，野沢温泉村，木島平村，栄村であるが，いずれの市村も長野市または中野市の2次商圈に含まれ，地元滞留率は50.9%にとどまっている。一方で飲食料品の地元滞留率は



第1図 研究対象地域（2016年）



写真1 降雪時の本町商店街

車道の両側にアーケードが整備され、歩行者は降雪時にも濡れずに商店街を移動することができる。商店は1階にあり、2階以上に居住する経営者が多い。

(2016年2月 橋爪撮影)

97.0%を示し、最寄品の購買行動は主に飯山商圏で完結しているといえる。

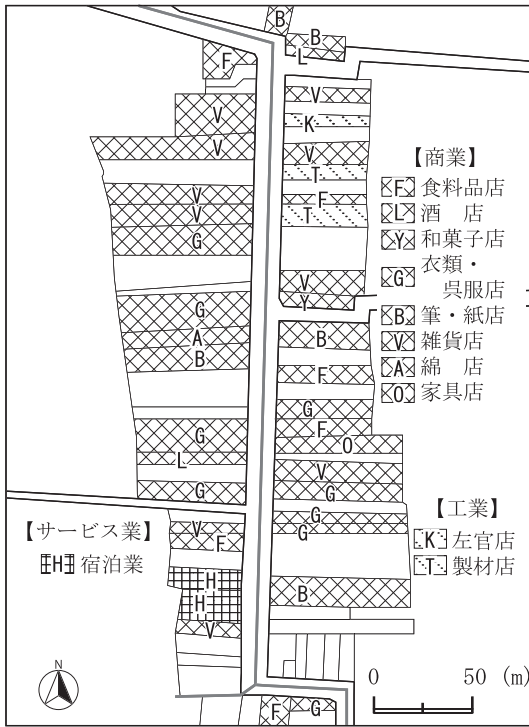
II 中心市街地の変遷と北陸新幹線の整備

II-1 中心市街地の歴史的変容過程

飯山市中心市街地は、1582年（天正10年）に上杉景勝方の武将である岩井信能が飯山城代として

城下町整備を行ったことで基礎が形成され、上町⁴⁾、下町（現在の本町）はこの頃に成立した（飯山市総合学習センターふるさと館編，2007）。近世初期には飯山藩の城下町および越後国と善光寺を結ぶ街道沿いの交易拠点として発展し、17世紀までに市街地西側の丘陵沿いに寺社が集められ、城下で仏壇製造業が勃興した（飯山市総合学習センターふるさと館編，2007）。明治に入ると町人地であった本町は商店街として引き継がれ、この頃には飯水地方の中心商店街としての地位を確立した（飯山市史編纂専門委員会編，1995）。第2図は明治時代初期の本町商店街の業種構成を示したものである。食料品店、衣類・呉服店、雑貨店が多く立地し、周辺農村からこれらの生活必需品の購入に訪れていたことが推察される。

1888年に官営鉄道（後の信越本線）が長野駅まで延伸し新潟県の直江津と結ばれると、新潟県からの物資輸送は鉄道利用が主流となり、富倉峠を経て飯山町に至る徒歩ルートは急速に衰退し、長野や中野方面への物資輸送拠点としての機能を喪失した（蛭田，1933）。続いて1921年に飯山鉄道（現在の飯山線）の豊野－飯山間が開通したことで、飯山町は長野方面からの物資の移入が増加し、飯水地方の農村から雑穀を集め、農村へ酒、醤油、塩、

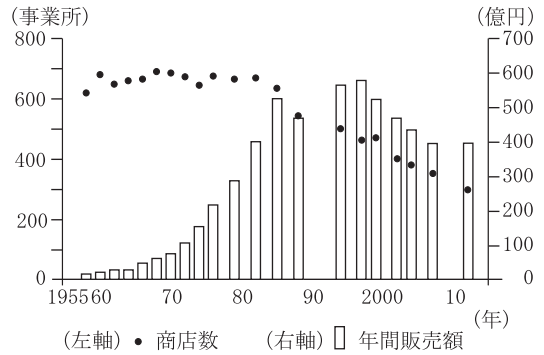


第2図 本町商店街の業種構成（明治時代初期）
注）空白の区画は不明または個人宅を示す。

（飯山市誌編纂専門委員会編（1995）により作成）

生活雑貨を送り出す卸売業の拠点となった（蛭田，1933）。こうして昭和初期までに、現在とほぼ同じ飯山商圏が画定した（蛭田，1933）。また飯山町内の道路整備に伴って1890年に仲町に商店が建ち始め⁵⁾，飯山駅の開業に合わせて本町から飯山駅に至る道路が開通し，上町商店街が形成された（飯山市誌編纂専門委員会編，1995）。

第二次世界大戦終結から1990年頃のバブル景気における飯山市の商業は，商店数に大きな変化はないものの，年間販売額は成長を続けていた（第3図）。本町商店街に店舗を構える経営者への聞き取りによれば，当時は特別な販売戦略を実施せずとも多くの顧客が来店し，どのような商品であっても販売することができたという。1975年には本町商店街に飯山市初の大型店「まるごん」が開業するが，地元商店の店舗拡張として受け止められたことと，いずれの商店も好景気であったこ

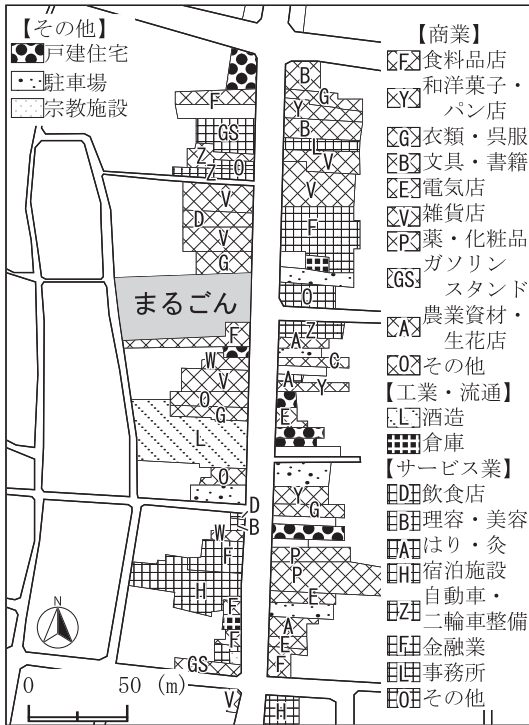


第3図 飯山市における商店数および年間販売額の推移（1958～2012年）

（飯山市誌編纂専門委員会編（1995），
飯山市経済部商工観光課（2014）により作成）

とから出店反対運動は発生せず，むしろ本町商店街の商業中心としての機能を高め，広く飯水地方から買い物客を集めることに貢献した。まるごんは室内遊園地を備えた4階建ての総合型ショッピングセンターであり，飯水地方の消費者の主要な購買先となった。第4図は，本町商店街の経営上の最盛期にあたる1988年の業種構成を示したものである。明治時代初期（第2図）と比較すると業種構成は多様になり，特にサービス業の進出が顕著にみられる。商業に注目すると，商店街の中央付近にまるごんが立地し，個人経営店舗は食料品店と雑貨店が多いという特徴がある。一部に戸建住宅や駐車場などがみられるものの，全体として商業・サービス業が卓越しているといえる。

本町商店街の好景気はバブル経済の崩壊とともに終焉を迎えた。1990年代より，第二次世界大戦以前から営業する老舗商店が徐々に閉店し始め，空地や駐車場に変化し，中心市街地南縁に近接する静間地区の国道117号沿線では，水田の転用許可の発令を待って大型店の出店が加速した（第5図）。例えば，1997年に開業した大型店「飯山ショッピングタウン」は広大な売場面積と駐車場，豊富な商品の特徴とし，年間販売予定額を38億円に設定していた（社団法人飯水教育会，1999）。これに対して1991年に飯山市や飯山商工会議所（以下，「飯山商議所」とする）などが共同で「飯山市広

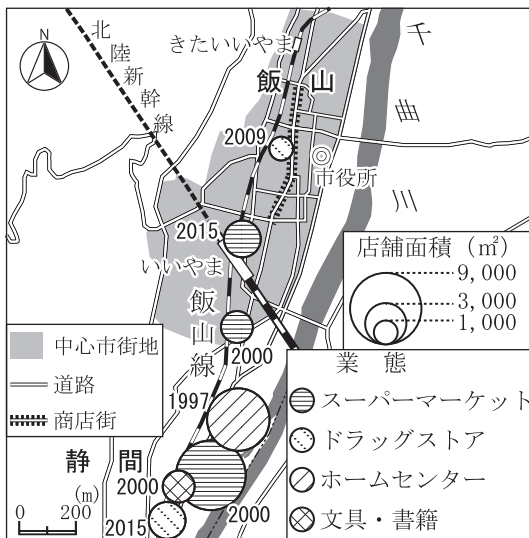


第4図 本町商店街の業種構成（1988年）
 注）図の範囲は第2図と一致する。
 （『ゼンリン住宅地図』，住民への聞き取りにより作成）

域商店街診断報告書」を取りまとめ、本町商店街を改めて中心商業ゾーンに位置づけ、回遊性のあるまちづくりを提言した。ソフト面では商店街共通のポイントカード「iカード」を発行することで商店街への来訪促進を図った（社団法人飯水教育会，1999）。しかしながら飯山市の商店数と年間販売額は縮小を続け（第3図），2001年にはまるごんが閉店した。本町商店街ではアーケードの整備や花の植栽などの環境整備と，六斎市などの催事の開催や大学と連携した商店街活性化事業を行うことで，商店街の再生に向けた活動に取り組んでいる。

II-2 北陸新幹線の整備

明治時代に新潟－長野間を結ぶ幹線から外れ，飯水地方の中心地の地位にとどまった飯山市では，北陸新幹線の整備構想の初期段階から熱心な新幹線誘致運動が展開された（第1表）。特に整備新幹線の当面凍結が発表された直後には，凍結に反対する大規模な市民らによる集会在3度開催



第5図 飯山市における大型店の分布（2016年）
 注）記号に隣接する数字は開業年を表す。
 （飯山市商工観光課への聞き取りにより作成）

第1表 飯山市における北陸新幹線整備をめぐる動向（1973～2015年）

年	月	出来事
1973	11	北陸新幹線整備計画決定
1979	11	北陸新幹線建設受入促進市民協議会発足
1982	3	飯山市を通るルートの公表 飯山駅の位置が決定
	9	整備新幹線当面凍結を発表
1988	8	8,000人集会
1992	6	11,000人集会
1996	7	10,000人集会
1997	10	高崎－長野間開業
1998	10	飯山トンネル建設工事着工
2000	12	長野－富山間の開業見通しが12年後と公表
2001	10	軌道敷買収開始
2004	12	長野－金沢間完成が2014年末と公表
2008	2	飯山トンネル貫通式
	6	飯山駅高架橋工事着工
2010	9	飯山市が飯山駅舎デザイン案を推薦
2014	10	飯山線を新・飯山駅へ切り替え
2015	3	長野－金沢間開業 新幹線飯山駅供用開始

（飯山市まちづくり課資料により作成）

されている。誘致をめぐるには、1979年11月の北陸新幹線建設受入促進市民協議会（後に「北陸新幹線飯山駅周辺まちづくり市民協議会」に改称）の発足をはじめ2011年までに5つの組織が設立され、新幹線の誘致、沿線自治体の連携、駅や軌道予定地の権利者の調整が進められた。飯山市当局も都市計画の策定、交通体系調査、観光者誘致などの事業を順次実行し、中でも2002～2003年度に活動した新幹線まちづくり市民会議は100回以上にわたる地区説明会を行い、住民の理解に努めた。

北陸新幹線の飯山駅は1982年3月時点で飯山市中心市街地の南端に位置するスキー工場を中心とした区域への建設が決定しており、2005年から土地区画整理事業として交通広場など7.7haの整備が開始された。この事業は社会資本整備総合交付金を受けて、総事業費のうち国から65%、県から10%の補助により実施された。また飯山駅は鉄道運輸機構が用地買収と整備を行い東日本旅客鉄道（JR東日本）が管理する駅舎部分と、飯山市が建設し信州いいやま観光局が管理する飯山駅観光交流センター（写真2）で構成されている⁶⁾。

このように飯山市民の期待を集めた北陸新幹線は、2015年3月14日に長野－金沢間が開業し、



写真2 北陸新幹線飯山駅千曲川口

千曲川口に設置された飯山駅観光交流センターは1階部分に観光案内所とアクティビティセンター、中2階に喫茶施設を併設した交流ホール、2階部分に無料で利用できるコンセントを備えた展望スペースを設けている。

(2015年11月 橋爪撮影)

2017年1月現在飯山駅には平日上り14本、下り12本が停車し、東京－飯山間を最速で1時間41分で結ぶようになった。2015年度の飯山駅の1日平均乗車人員は1,012人で、そのうち新幹線の乗車人員が504人と半数を占める⁷⁾。特に冬季はスキー客の利用が多く、2016年1月16日の飯山市による調査では、新幹線飯山駅の降車人員1,037人のうちスキー客が約8割を占め、東京方面からの降車人員が9割に達した⁸⁾。

地域活性化への期待を集める一方で、新幹線の飯山駅は旧飯山駅の位置から約300m南方へ移設されたため、旧駅時代よりも中心商店街との距離が遠くなってしまった⁹⁾。郊外に立地する大型店も飯山市の南部に集積することから、中心市街地の南方への移動が進行しているといえる。

Ⅲ 本町商店街における店舗経営の特徴

Ⅲ-1 土地利用の特徴

2016年5月に本町商店街を含む飯山市中心市街地において土地利用調査を実施した（折込土地利用図参照）。本研究では国土地理院発行5万分の1地形図「飯山」の「建物の密集地」の範囲を参考に、千曲川と寺社の集積する丘陵地を東西の縁、飯山城跡と飯山駅を南北の縁として、調査範囲を設定した。

商業・サービス業は、仲町・本町・上町の各商店街を形成する中心市街地の中央を貫く道路沿いに多く分布し、飯山郵便局前の旧飯山街道沿線、中央橋から西へ向かう県道飯山斑尾新井線の沿線にも分布する。本町商店街に注目すると、通りに面した南北方向の間口が狭く、東西方向に長い短冊状の区画が卓越し、城下町の名残が確認できる。本町商店街南側から上町商店街にかけての西方一帯は旧飯山駅所在地に近く、居酒屋・パブ・スナックが点在する。また店舗併設の住宅が多くみられる。

工業は、地域の伝統産業である仏壇製造・販売が北西部の愛宕町に集積しているのが特徴である。また南西部には製材・木材加工が点在する。

教育・公共機関は、飯山市役所の立地する市街地中央東部と飯山城のある北東部に集中し、幼稚園・保育所が戸建住宅に囲まれた中に点在する。また飯山駅の北には、2016年に開館した飯山市文化交流館なちゅらが立地する。

飯山市において特徴的な冬季の積雪に対応した土地利用もみられる。例えば国道117号以東は堤外地であるため、ほとんどが河川敷となっており、その一部が冬季に雪捨て場として利用されている。また、商業・サービス業集積地の本町商店街や、仏壇製造・販売が集積する愛宕町には軒先の歩道に雁木やアーケードが設置されている。本町商店街のアーケードと愛宕町の雁木はどちらも行政の補助金を受けて整備され、冬季の雪除けと良好な景観形成に寄与している。ただし両者とも1区画ごとに整備されているため、不連続の箇所も多い。

飯山市中心市街地の全体的な特徴として、中央に商業・サービス業、西部に工業、東部に教育・公共機関が集積し、その間隙に居住機能、駐車場・駐輪場、宗教施設が分布しているといえる。また北陸新幹線開業に伴って開発された飯山駅周辺は、他の地域に比べて1区画が大きくなっており、飯山赤十字病院、飯山警察署が立地するほか、大型の食料品店やドラッグストア、金融機関の進出がみられる。これらの店舗は中心商店街と直接的に競合するものであり、飯山市南部方面からの商店街への誘客を難しくしているといえる。

Ⅲ-2 本町商店街の商業・サービス業の特徴

2016年5月に、本町商店街組合に加盟する42軒¹⁰⁾のうち、23軒の経営者に対して聞き取り調査を実施し、本町商店街における店舗経営の特徴を明らかにした。以下では聞き取り調査結果をもとに、店舗経営の特徴を論ずる。

1) 個人経営店舗の基本情報

第2表に調査対象店舗の基本情報をまとめた。営業時間は宿泊業の2軒を除き、8～9時間程度であり、おおむね19時には営業を終了している。

定休日のない店舗や不定休の店舗もみられるが、日曜日に休業する店舗が9軒で最も多くなっている¹¹⁾。

取扱品目は食料品と薬・化粧品がそれぞれ3軒で最も多く、2軒扱う品目が6つあり、他は1軒である。創業時期は第二次世界大戦後が7軒であり、多くの店舗は第二次世界大戦前から本町商店街で経営する老舗店舗となっている。

経営者が女性である店舗は4軒にとどまり、ほとんどが男性経営者である。経営者の年齢は60歳代以上が半数の11軒を占めるが、取扱品目・開業年・従業員数など他の要素との明確な相関は認められない。経営者を含む従業員数は3人の店舗が7軒と最多で、家族内労働力に対応する場合と1人を雇用する場合に分けられる。多くの店舗は本町商店街の1軒のみを経営しているが、店舗1、13は複数店舗を経営している。

土地・店舗の所有形態はほとんどが自己所有であり、職住一体の経営者が大半を占めている。職住を分離している場合でも、2階以上に居住空間を確保して繁忙期に寝泊まりを行う経営者も存在しており、本町商店街の店舗経営者は本町地区の住民であるといえる。

2) 個人経営店舗の経営状況

第3表は調査対象店舗の経営状況をまとめたものである。今後の経営方針については、ほとんどの店舗が「無難に継続」を選択しており、現経営者による従来通りの経営が今後も継続されることが予想される。一方、「意欲的に継続」と回答した店舗が7軒あり、特にサービス業では5軒中3軒が意欲的である¹²⁾。後継者を現時点で確保しているのは5軒のみであり、いずれも経営者の息子を後継者としている。繁忙期・閑散期は農作業と連動する店舗が多く、農繁期の利用が多い店舗は夏季が繁忙期となり、農閑期の利用が多い店舗は冬季が繁忙期となる。積雪時の売上の増減もおおむねこれに準じるが、サービス業は店舗23を除く全店舗で積雪期の売上が減少している。

顧客に注目すると、男性の来店が多い店舗は店

第2表 調査対象店舗の基本情報（2016年）

	番号	営業時間	定休日	取扱品目	労働力		開業年	所有形態		居住
					経営者	従業員		土地	店舗	
商 業	1	9-19	不定	食料品	M4	5	1930頃	自	自	同
	2	7-19	元日	食料品	M-	4	1939	自	自	同
	3	7-19	日	食料品	M4	3	江戸末期	自	自	別
	4	8-18:30	無	和菓子	M6	2	1930頃	自	自	別
	5	9-18:30	無	洋服	M5	3	明治	自	自	別
	6	9-18	日	洋服	M7	2	1952	自	自	同
	7	10-19	日	書籍	F6	3	1883	自	自	同
	8	9:30-18	日	時計・眼鏡	M-	2	1951	自	自	同
	9	9:30-18:30	月3回	時計・眼鏡	M7	1	1910頃	自	自	同
	10	8:30-19	日	写真	M4	2	1946	自	自	同
	11	9-19	第1・3日	薬・化粧品	M6	3	1910頃	自	自	同
	12	10-18	日	薬・化粧品	M5	3	1926	自	自	同
	13	8-19	日・祝	薬・化粧品	M6	10	1911	自	自	同
	14	8-16	無	雑貨	M6	2	明治	自	自	同
	15	9:30-18	火	雑貨	M6	2	1960	自	自	同
	16	8-18:30	日	燃料	M-	5	1973	自	自	同
	17	7-19:30	元日	燃料	F-	2	1918	自	自	同
	18	8:30-19	無	農業用品	M6	3	n.d.	自	自	同
サ ー ビ ス 業	19	10-16	木	飲食店	F7	1	2010	借	借	別
	20	11-21	水	飲食店	M4	5	明治	自	自	同
	21	-	無	宿泊業	M4	10	鎌倉	自	自	同
	22	-	無	宿泊業	F8	2	n.d.	借	自	同
	23	8-18	不定	印刷業	M5	3	1963	自	自	同

〔経営者〕 M：男性，F：女性，数字は年齢（N0歳代，-は不明）〔従業員〕 経営者を含めた人数

〔所有形態〕 自：自己所有，借：借用〔居住〕 同：職住一体，別：職住分離

（経営者への聞き取りにより作成）

舗7，22のみであり，ほとんどの店舗では男女比が同数か女性の方が多くなっている。年齢層は50歳代以上の店舗が半数以上を占め，全体的に高齢層への偏りがみられる。また彼らのほとんどが飯山商圈に居住する常連客であり，商業においては新規顧客の獲得が難しくなっている。

北陸新幹線の開業に伴う観光者の来店の有無に着目すると，23軒中16軒で観光者の来店があり，多くの店舗が新幹線の開通効果を実感している¹³⁾。観光者は東京方面と富山・金沢方面の両方からの来訪があり，中には故郷を懐かしみに訪れる飯山商圈出身者や，冬季のスキー客を中心としてオーストラリアや台湾などからの外国人の姿もみられる。特に外国人観光者は日本独自の商品を取り扱う店舗への来店が多く，サービス業ではアプレス

キーを楽しむために市街地での宿泊や食事を目的として来訪している。

3) 個別店舗の経営事例

(1) 商業店舗の事例

①洋服店（店舗5）

店舗5は明治時代に古着店として肴町¹⁴⁾で創業し，現在は婦人服を中心に紳士服，学生服，作業服，靴，カバン，小物類の販売を行っている。現在の経営者は3代目であり，東京都内の百貨店で6年間洋服のバイヤーを経験した後，店舗経営を引き継いだ。現在は50歳代の妻と60歳代の女性店員の3人で経営しており，後継者はいないが意欲的に経営を継続する予定である。

売上の最盛期は1980年代頃であり，当時は多店

第3表 調査対象店舗の経営状況（2016年）

	番号	経営方針	後継者	売上の季節変動			顧客の特徴				観光者訪問
				繁忙期	閑散期	積雪期	性比	年齢	常連比	居住地	
商業	1	→	無	12月	2月	-	2:8	5以上	0.9	飯	有
	2	n.d.	n.d.	盆, 正月	n.d.	+	1:1	高齢者	0.9	飯	有
	3	↗	M0	冬	n.d.	+	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.	n.d.
	4	→	無	8・1月	夏季	変化なし	n.d.	5以上	1	飯	有
	5	↗	無	秋, 冬	春・夏	-	2:8	6	1	飯	有
	6	→	無	変動なし		変化なし	女性多い	n.d.	n.d.	飯	有
	7	↘	未	3月	5月	+	6:4	6	0.7	飯	無
	8	→	無	変動なし		n.d.	1:1	5以上	0.7	飯	有
	9	↘	無	変動なし		変化なし	1:1	5以上	0.9	飯	無
	10	検討中	未	春	n.d.	-	1:1	6	0.8	飯	有
	11	↗	未	変動なし		n.d.	女性中心	3-8	1	飯	有
	12	↗	無	春, 夏	冬	-	女性中心	4-6	0.7	飯	有
	13	検討中	M4	変動なし		+	5:1	5-6	1	飯	有
	14	→	無	夏	冬	+	1:1	6-7	1	市外	有
	15	→	無	秋, 冬	n.d.	-	ほぼ女性	4-5	0.5	飯	無
	16	n.d.	M3	10~4月	n.d.	+	n.d.	多様	n.d.	飯	有
	17	→	M3	冬	n.d.	+	n.d.	4-5	1	飯	無
	18	→	無	4, 5, 8月	10, 11月	変化なし	n.d.	7-8	1	飯	有
サービス業	19	→	未	夏	農繁期	-	2:8	6-7	0.5	東, 長	有
	20	↗	未	盆, 正月	冬	-	1:1	6	0.8	飯	有
	21	↗	無	冬, 春	5, 6月	-	多様	多様	n.d.	市外	有
	22	↗	M4	連休	n.d.	-	10:0	5	0.1-0.2	飯	n.d.
	23	↘	無	3月	n.d.	変化なし	n.d.	n.d.	n.d.	飯	無

n.d.: 不明または無回答

〔経営方針〕 ↗: 意欲的に継続, →: 無難に継続, ↘: 縮小

〔後継者〕 M: 男性後継者あり(数字はN0歳代を示す), 無: なし, 未: 未定

〔積雪期〕 +: 売上増加, -: 売上減少 〔性比〕 男性: 女性を示す

〔年齢〕 最多顧客の年齢層(数字はN0歳代を示す) 〔常連比〕 全来店者数を1とした場合の常連客の割合

〔居住地〕 飯: 飯山商圏(主に飯山市内), 東: 東京, 長: 長野市, 市外: 飯山市外

(経営者への聞き取りにより作成)

舗展開も行っていましたが、現在は本町商店街の1軒のみ経営し、婦人服を販売の主軸とする。店頭での小売が売上の9割を占めており、ほとんどが飯山商圏内の60歳代の常連客となっている。このため経営者は常連客とのコミュニケーションを重視しており、対話をしながら顧客の嗜好に応じた洋服を薦めるだけでなく、年4回のダイレクトメールの発送や店舗内に設置している喫茶スペースでの人生相談などを行っている。顧客は主に自動車来店するため、積雪時は客足が減少する。

店舗5の経営者は自らの店舗経営のみならず、新幹線の誘致運動や商店街の企画する各種取り組

みへの積極的な参加と協力を行い、地域の発展にも貢献している。

②薬・化粧品店(店舗11)

店舗11は1910年代に小間物屋として開業し、カバンや足袋、エプロン、洋服などを販売した時期を経て、現在では化粧品を専門に取り扱っている。現在の経営者は67歳の男性で3代目であり、66歳の妻とパート従業員の3人で経営する。メーカーと共同でエステスペースを作るなど、定期的に店舗の改装を行っている。

販売品目が化粧品であることから、来店客のほ

とんどが女性である。年齢層は30～80歳代と幅広く、高齢の常連客が孫とともに来店することもあるという。店頭での販売を主とし、顧客は主に飯山商圏に居住するが、店舗11でしか取り扱いのないブランドの化粧品を求めて中野市や信濃町から来店する人もいる。ほとんどの顧客が常連客であり長期的な付き合いを背景に、店内で茶を提供しながら顧客との対話や悩み相談などを実施している。また常連客に楽しんでもらえるように、季節感のある内装に変更したり季節ものの商品を店頭と並べたりといった取り組みを行っている。

店舗11の経営者は商店街から1軒でも店舗が閉鎖すると景観が損なわれると考えており、可能な限り店頭での販売を継続したいという意向を持っている。また店頭での販売を行うことによって顧客とコミュニケーションが生まれ、それによって経営意欲を高める効果があることも指摘している。

③雑貨店(店舗15)

店舗15は1960年に日除けテント、絨毯、カーテンなどの内装品を中心に取り扱い店舗として開業し、現在でも60歳代の男性経営者が内装業を行っている。一方で、2000年頃に行った店内の改装を契機として、経営者の妻が雑貨店を運営するようになった。現在でも経営者の従事する内装業の売上比率の方が高いが、顧客の元へ出張して業務を行うことが多いため、店舗としては主に経営者の妻が営む雑貨店に利用されている。

内装業の売上の最盛期は1980年代後半からのバブル経済期であり、戸狩や野沢温泉村のスキー場に立地する宿泊施設からのカーテン、絨毯、壁紙の需要が多かったという。現在では大手事業者の対応が難しい1部屋単位の壁面修理など、細やかなニーズへの対応を中心に据えた経営を行っている。妻が営む雑貨店では、キャンドルや置物などの輸入品のインテリアグッズを中心に販売し、飯山市への移住者や仏壇職人が製造した商品の委託販売も行っている。内装業の顧客が飯山商圏の男性が中心であるのに対し、雑貨店の顧客は観光者

の女性を中心としており、対照的である。

店舗15は観光者が入店しやすいように店頭の装飾を工夫し、店内では土産物として購入できる雑貨を販売するなど、常連客と新規顧客の双方が来店し商品を購入できる環境を整えている。また本町地区で開催される祭りの際には店舗の延長営業を行ったり、祭りや季節に関連した商品を店頭と並べたりするなど、商店経営と商店街の活性化の両立を図っている。

(2) サービス業店舗の事例

①飲食店(店舗20)

店舗20は明治時代に創業した飲食店であり、開業以来取扱品目の変更はない。現在の経営者は47歳の男性で4代目であり、先代である83歳の父、79歳の母、従業員2人の5人で経営している。経営者が40歳代と若いため、後継者は未定である。売上の最盛期は1975年頃であり、飯水地方のスキー場を利用するスキー客の需要が多かった。現在の売上は6割を出前や宅配などのデリバリー部門が占め、飯山市内の葬儀場、飯山市役所、飯山赤十字病院への仕出し料理の提供も行っている。

店舗に来店する顧客は常連客が8割程度で、店舗から半径5km以内に居住する人が多い。観光者の来訪もあり、日本人は春季と冬季、外国人は冬季の来店が主である。特に外国人客は新幹線開通後に現れた新しい客層であり、全員がスキー客で、2016年にはオーストラリア、台湾、タイから4組の来訪があった。

店舗20は本町商店街通りから少し離れたところに立地するため、商店街に属していることによるメリットを必ずしも享受していないが、商店街の一員としていいやま灯笼まつりやいいやま雪まつりなどの実行委員会に参加し、祭りの運営に貢献している。

②宿泊施設(店舗21)

店舗21は創業700年の老舗宿泊施設であり、40歳代の男性経営者はおおよそ28代目にあたり¹⁵⁾、家族を含め10人で経営を行っている。宿泊業である

ため顧客の性別や年齢層、居住地は多様である。飯山市近隣の顧客は主に忘年会や新年会、歓送迎会での利用が多く、行政関係や飯山赤十字病院の見舞客の宿泊需要もある。

店舗21では新幹線開通と前後して、従来の地域住民向けの忘年会等の飲食店機能の重視から宿泊業重視へと転換し、観光者の誘致を試みた。経営者はアメリカの大学で経営学を専攻し、同国で店舗の共同経営を経験したことから、そのノウハウを生かして店舗21の公式ウェブサイトを作成し、インターネットからの宿泊予約ができるようにした。外国人観光者の誘致に向けた特別な取り組みは実施していないが、中心市街地に立地するという特性から、周辺スキー場への宿泊拠点としてオーストラリアや韓国、香港などから宿泊客を集めている。また店内の飲食店の利用を促進するため、食べ放題や飲み放題のプランを設けるなど、従来の「敷居が高い」というイメージの刷新にも取り組んでいる。

店舗21では商店街に立地していることを高く評価しており、店舗で使用する食材のほとんどを商店街内で調達し、その他の品も可能な限り商店街内から入手するように努めている。また祭りの際には実行委員の1人として参加し、参加者へ昼食や控室を提供するとともに、祭りの終了後には慰労会の会場ともなっている。

(3) 事例からみた店舗経営の特徴

以上のように、本町商店街の各店舗では取扱品目の特性や客層に応じて種々の取り組みを行い、経営を維持している。これらの店舗は意欲的な経営者が時代の変遷に応じて取扱品目や経営戦略を柔軟に変更することで、100年以上に及ぶ長期経営を実現してきた。

商業店舗においては、高齢の常連客と経営者の間で茶をとともに飲みながらの伝統的なコミュニケーションがとられ、顧客と経営者という関係を超越した温かい信頼関係が育まれている。他方で、高齢の常連客に依存した経営は新規顧客の獲得を難しくしており、今後の安定的な経営の不安材料

となっている。多くの商業店舗は観光者の来店はあっても売上にはつながっていないが、店舗15のように観光者が土産物として購入できるような商品をも取り扱うことで、常連客と観光者の双方の利用が可能な経営を行っている店舗も存在する。

サービス業店舗においては、飲食業や宿泊業といった業種が、観光者の需要を取り込みやすいという特性を有するため、特別な取り組みを行わなくとも外国人を含めた観光者の誘致に成功している。例えば店舗20では、観光者向けの対応を積極的に展開するわけではないが、観光者の来店が全体の2割を占めるに至っている。一方、店舗21では新幹線開通に合わせた宿泊業の積極的な拡大戦略を実施したことで新規需要を開拓しており、観光者の誘致による店舗経営の拡大が可能であることを示している。

IV 本町商店街における活性化の取り組み

本町商店街では、個人経営店舗の経営者が工夫を凝らした経営を行うのみならず、商店街全体の活性化に向けたさまざまな取り組みが実施されている。ここではハードとソフトの2面から、商店街活性化を目指す取り組みについて述べた後、大学との連携による地域活性化にも言及する。

IV-1 ハード面の整備

1) 中核的集客施設の整備

1990年代以降の個人経営店舗の閉店や2001年のまるごん撤退による本町商店街の求心力低下に対し、飯山市や飯山商議所では商店街の中央付近にアメリカンドラッグ飯山本町店とセブン-イレブン飯山本町店を誘致し、本町ぶらり広場を整備することで、本町商店街における集客の中核施設として位置付けた。以下ではそれぞれの施設の設定の経緯と現在の集客機能について述べる。

(1) アメリカンドラッグ飯山本町店

アメリカンドラッグ飯山本町店は1975年に飯山市で最も早く開業した大型店である「まるごん」

の跡地に立地する（第4表）。本町商店街の店舗経営者への聞き取りによれば、まるごんは飯山市を地盤とする企業が設立した4階建ての大型店で、出店するテナントも飯山市内の企業が多かった。最盛期の1980年代には、まるごん1店舗で本町商店街の総売上高の半分を占めたと言われ、本町商店街の中核的集客施設として機能していた。信州マイカルアスク飯山店に改称して以降も中核的集客施設としての役割を果たした一方で、売上は減少し、施設の老朽化が進行した。

こうした中で1999年に飯山市は「中心市街地活性化基本計画」を策定し、2000年にはアスク飯山店の再開発計画が浮上した。しかし、2001年4月に再開発事業の原資として期待された地域振興整備公団の出資が得られないことが判明し¹⁶⁾、再開発計画は頓挫した。同年5月にアスク飯山店が閉店し、これに代わって本町商店街などが出資する食料品スーパーマーケット「Eマート」が開業した。Eマートは商店街活性化の要として期待されたものの2004年4月に閉業し、以降生鮮食料品を販売するスーパーマーケットが中心商店街から失われた¹⁷⁾。

この時に本町商店街では住民アンケートを実施

し、生鮮食料品を扱うスーパーマーケットの出店を望む意見が多く挙がったことから、まるごん跡地を購入した飯山商議所の元副会頭が複数の企業と跡地への出店交渉を行った。その結果、飯山市出身者が社長を務めるドラッグストア「アメリカンドラッグ」の出店が決定し、その一部に飯山商議所の元会頭が新たに設立した食料品スーパーマーケットの「みゆき生鮮市場」を設置することで交渉がまとまった。みゆき生鮮市場には本町商店街に店舗を置く精肉店がテナントとして出店している。

アメリカンドラッグとみゆき生鮮市場は2009年の開業以来、飯山市中心商店街に立地する唯一の大型店として幅広い年齢層の利用に供している（写真3）。店舗の南側に平面の広い駐車場を設け、自動車での来店に対応している。

(2) セブン-イレブン飯山本町店

セブン-イレブン飯山本町店は、現在の飯山商議所副会頭が土地を購入し、2013年に開業したコンビニエンスストアである。南側には八十二銀行飯山支店が隣接する。同店は家具・材木店と日用雑貨店の2店舗分の跡地に立地しており、両店舗の閉店後は空地となっていた。店舗は敷地の東端

第4表 信州マイカルアスク飯山店の再開発事業の推移（1975～2009年）

年	月	出来事
1975	10	大型店「まるごん」が開業
1999		飯山市中心市街地活性化基本計画策定、各種アンケートを実施
2000		飯山市と飯山商議所が共同で飯山市まちづくり合意形成事業を実施
	12	まちづくり専門家M氏から地域振興整備公団の出資を活用したアスク飯山店の再開発提案を受ける
2001		アスク飯山店再開発とTMO設立に向けた取り組みを開始
	4	飯山市が地域振興整備公団の出資条件に合致しないことが判明
	5	アスク飯山店閉店、Eマート開業
2004	4	Eマート閉店
	秋	Eマート跡地が更地化
2009	9	アメリカンドラッグ飯山本町店開業

（飯山商工会議所資料により作成）



写真3 アメリカンドラッグ飯山本町店

写真中央がドラッグストアの入り口で、その右側にスーパーマーケットの入り口がある。ドラッグストアでは文具や生活用品なども販売しており、一通りの生活必需品を商店街で入手することができる。

（2015年10月 橋爪撮影）

に建てられ、商店街通り沿いは平面の広い駐車場として利用されている。

1998年時点で飯水地方には7軒のコンビニエンスストアが出店していた（社団法人飯水教育会、1999）が、いずれも郊外部に位置し、セブン-イレブン飯山本町店は飯山市中心市街地に立地する初めての店舗となった。コンビニエンスストアは食料品や生活用品の販売だけでなく、高齢化社会に適応したサービスの提供や、災害時にはライフラインとしての機能を果たすなどさまざまな機能を持ち、現代のコミュニティを支える役割を担っている（加藤、2012）。本町商店街の店舗経営者への聞き取りによれば、一般の消費者だけでなく、店舗経営者もセブン-イレブン飯山本町店を日常的に利用しており、来客をもてなす菓子やコーヒーの購入に役立っているという。また24時間営業していることから、店舗の照明が地域の防犯に貢献している。

（3）本町ぶらり広場

本町ぶらり広場は、中心市街地活性化事業の一環で酒造店の跡地を整備した広場であり、1998年に完成した。上述の2施設が民間主導で整備され商業機能を中心としているのに対し、本町ぶらり広場は飯山市によって整備され、イベント広場、展示施設「ぎやらりい白銀」、そば店が出店する和風建築物などで構成される文化交流機能の強い施設となっている（写真4）。

通常時は舗装された広場部分を公共の無料駐車場として利用することができ、自動車を利用して本町商店街に来訪する際に便利である。また広場は本町商店街が主催する六斎市や、いいやま灯籠まつり、いいやま雪まつりなどの催事場として、また、ぎやらりい白銀は飯山市内で活動するサークルの展示会場として活用されている。

2）商店街の景観形成

本町商店街では1983年にアーケードが整備され冬季の歩行回遊を容易にしてきたが、老朽化によって雨漏りが発生していた。そこで2006年に本町アーケード研究会を設置し、行政へアーケード



写真4 通常時の本町ぶらり広場

写真手前がイベント広場にもなる駐車場、中央の蔵が「ぎやらりい白銀」。蔵の左隣がそば店である。この蔵は酒造店として操業していた頃のもので、改装の上展示場に利用されている。

（2015年10月 橋爪撮影）

の修繕要望を提出するとともに住民アンケートを実施して住民の意見・要望をまとめる活動を行った。その結果、2010年にアーケードや雁木、まちなみ修景の視察予算が計上され、2011年には文化学園大学教授からまちなみ修景デザイン案の提示を受けた。この提案は「和モダン」を本町商店街の統一コンセプトに据えたもので、本町では2012年5月に本町まちづくり協定の策定と合意に至り、続いて2014年には老朽化したアーケードの再整備が完了し、商店街通りに「本町城下通り」という愛称が制定された。

本町商店街におけるアーケードの再整備は、老朽化による補修というだけでなく、北陸新幹線の開通を控えて、商店街の基盤整備を図るとともに景観形成を通して本町や飯山市の歴史文化を見つめ直す機会の醸成にも寄与した。

Ⅳ-2 ソフト面の整備

本町商店街では、ソフト面の整備として、本来的な機能である商業振興による商店街活性化と、北陸新幹線開通を契機とした観光振興による商店街活性化の2つを意識して、1年を通して数多くの催事を開いている（第5表）。これらの催事は、

第5表 本町商店街における主な催事（2016年）

月	日	催 事
2	10-16	第9回いいやまバリューウォーク
	13-16	いいやま雪まつり ひな人形展（～3/6）
3	5-19	本町商店街お買得スタンプラリー
5	3-5	いいやま菜の花まつり （アスパランが会場へ出張）
	26	六斎市初売り
7	9-10	飯山祇園祭
8	11	いいやま灯籠まつり
9	2-3	法政大学による「いいやま学びの里 サマーカレッジ」
10	2	さんま祭
11	2-4	飯山えびす講

（経営者への聞き取り，飯山市本町商店街協同組合（2016）により作成）

本町商店街組合が主催または共催するもの，本町商店街組合は関与しないが，商店街の店舗経営者が参加するもの，住民組織としての本町区が主催するものに細分することができるが，実際の参加者はいずれもほぼ一致するため，本節では特に区別しないものとする。

1) 商業振興による商店街の活性化

商業振興による商店街活性化の取り組みには，いいやまバリューウォーク，本町商店街お買得スタンプラリー，六斎市，飯山えびす講が挙げられる。これらの取り組みは主に飯山商圏の住民を対象としたものであるが，六斎市は将来的に観光資源として活用していくことが検討されている。

いいやまバリューウォークや本町商店街お買得スタンプラリーは，協賛店舗で商品の購入やサービスの提供を受けてスタンプを集めると抽選で商品券などが当たる催しであり，直接的に消費者への購買行動を促す催事である。特にいいやまバリューウォークでは，2,000円でバリューチケットを購入すると，購入金額以上のサービスを受けることができる。

六斎市は本町商店街の街路に建つ市神社の祭礼として江戸時代から開催されていた定期市であったが，のちに断絶し，2007年に商店街内の空地を利用したフリーマーケット方式で再開した。Eマートの閉店を受けて地域の高齢者らが生鮮食料

品を購入することが困難となり，生鮮食料品を販売する場が検討された際に，六斎市が地域資源として再発見されたのであった。2009年には長野県の補助金を受けて常設の販売施設や「六斎市」と書かれた紺色の幟が製作され，本町ぶらり広場で冬季を除く毎月2と6の付く日に開催されるようになった¹⁸⁾。2016年は5月26日に11店が出店して初売りが行われ（写真5），農産物やおやきなどの郷土料理，古着などが販売されたほか，本町商店街組合によるタケノコ汁の無料配布も実施された。六斎市は生産者である農家と消費者の交流の場として機能するとともに，地域の高齢者にとっては定期的に外出して知人らと会話を楽しむ場となっている。他方で近年は出店者や来訪者の固定化が進んでおり，住民の中には新たな取り組みによる六斎市の活性化を求める声もある。

飯山えびす講は1923年（大正12年）に兵庫県西宮市の西宮神社から飯山市の西宮神社が分霊を受けたことを契機として，毎年11月2日から4日にかけて開催される祭礼で，仲町商店街から上町商店街の間で開催される。飯山市ではえびす講の際に冬季の積雪に備えて除雪用具や生活用品を購入するのが習慣となっており，飯水地方に冬の到来を告げる祭礼として認識されている。特に祝日で



写真5 六斎市の準備の様子

常設の木製屋台が販売施設となっており，事前登録した出店者が自身の販売したい商品を持ち寄り，店頭に並べて販売する。六斎市の取り組みは2009年に長野県知事から「地域発 元気づくり大賞」を授与された。

（2016年5月 金子撮影）

ある11月3日には商店街通りが歩行者天国となり、子供向けの体験イベントなどが開催される。

2) 観光振興による商店街活性化

観光振興による商店街活性化の取り組みには、いいやま雪まつり、ひな人形展、いいやま灯籠祭りなどの催事がある。いずれも伝統的な祭礼ではなく、本町商店街組合が主催するものではないが、中心市街地を会場とすることから本町商店街でもさまざまな催しが行われる。また六斎市や飯山えびす講と比較すると、雪まつりなどはより広域からの集客を見越した催事として位置付けられている。

いいやま雪まつりは、飯山城の北に隣接する城北グラウンドを主会場として毎年2月に開催され、飯山市内各所に巨大な雪像が設置される。本町商店街においても、例年本町ぶらり広場に大きな雪像が設置され（写真6）、商店街通りに沿って小さな雪像が並べられる。また餅つき大会や甘酒の振る舞いなども実施される。ひな人形展は雪まつりの直後からひな祭りの頃まで開催され、各店舗が所有するひな人形や手作りの吊るしびななどを店頭飾っている。ひな人形の展示だけでなく、製作体験を開催する店舗もある。いいやま灯籠祭りは市民らがメッセージやイラストを描いた

灯籠が歩行者天国になった商店街通りなどに並べられ、夜間に明かりが灯される。日中には鼓笛隊によるパレードやダンスパフォーマンスなども開かれる。

以上のような催事の際には、本町商店街の店舗経営者が祭りの実行委員として企画運営に参加し、本町商店街とは密接に関わっている。実行委員にならない経営者も、催事中の延長営業を行ったり、参加者として出かけたりするなど、直接・間接に催事に関与している。

観光振興による商店街活性化には大きく2つの課題がある。第一に本町商店街への来訪者は催事中に急増するものの、個別店舗の売上には直接結び付かないことである。催事中は多くの店舗が営業時間の延長や、定休日であっても臨時開店するなどして店舗営業を実施するが、多くの観光者は店舗前を素通りするのみで、入店しても特に何も買わずに出て行くという。第二に平常時における本町商店街への観光者の誘導が難しいことである。飯山市中心市街地ではまちあるき観光が推進されているものの、観光者は市街地西方に多く立地する寺院巡りや仏壇店の連なる愛宕町の仏壇通りに集中してしまい、有償の観光ボランティアである「飯山ふるさと案内人」によるまちあるきのモデルコースにも本町商店街は含まれていない¹⁹⁾。



写真6 本町ぶらり広場の雪像

雪像制作は、住民組織としての本町区が主体的に行う。2016年は飯山城をモチーフとした雪像が作られた。

（飯山市本町商店街協同組合（2016）より引用）

IV-3 大学と連携した地域活性化

本町商店街では2016年までに法政大学および文化学園大学と連携して地域活性化に向けた取り組みを実行してきた。両大学は毎年継続して飯山市の活性化事業に取り組んでおり、その活動は住民からの評価を得ている。

1) 法政大学との連携

法政大学との連携事業は、人間環境学部の小島ゼミが2005年から毎年夏季に学生・教員を含め約60人で飯山市を訪問し、1泊2日の合宿形式で実施している²⁰⁾。学生らは飯山市滞在中に、現地調査や催事の共同開催を通して地域住民と交流し、実行可能な地域活性化策の検討・提案を行う。

2016年までに六斎市の運営協力、本町商店街のマスケットキャラクター「アスパラン」の制作、マチカフェ「空楽」^{くうらく}の設置提案を行い、実現してきた。学生の目線から忌憚のない意見が出され、実行・継続が可能な提案がなされるため、店舗経営者らから高く評価されている。

また同学の仲介により、2014年から埼玉県川口市の川口銀座商店街と本町商店街の交流も行われている。川口銀座商店街に「出張六斎市」を出店し、本町商店街の六斎市で川口市を紹介する展示を実施するなどの活動が行われ、相互の関心を高めている²¹⁾。

2) 文化学園大学との連携

東京都渋谷区にある文化学園大学との連携事業は、同学理事長が飯山市出身であることや、飯山市の北竜湖にセミナーハウス「文化北竜館」を設置していることが縁となって実現した。同学ではファッションやデザインに関する教育・研究を行っていることから、本町商店街では主に景観形成に関する取り組みに参加している。代表的な活動として2013年に本町通りまち並修景整備のためのデザイン提案と、これに基づく2014年の各店舗をイメージした藍染めのれんの制作が挙げられる。

VI おわりに

本研究では、高速交通網が整備された地方都市である長野県飯山市に位置する本町商店街を事例に、商店街経営の特徴と、高速交通網整備を契機とした商店街活性化の取り組みを明らかにすることを目的とした。本研究で明らかになった知見は次の通りである。

本町商店街は戦国時代に形成された城下町の都市骨格を現代まで継承してきた商店街であり、農業を基盤とする飯水地方における唯一の都市的地域として、競合する商業地域を持たずに1980年代まで繁栄してきた。しかしバブル景気の崩壊と大型店の郊外への出店が重なり商店経営が厳しくな

り、2001年には商店街の中核的集客施設であったまるごんが閉店することで商店街の求心力が低下した。一方で、飯山商圏における食料品購入の地元滞留率はほぼ100%に達し、商圏の地盤は揺るぎないものとなっている。また1995年の豊田飯山インターチェンジの開設、2015年の北陸新幹線の延伸開業を通して大都市との時間距離が短縮され、今後の発展可能性も期待できる。

本町商店街を構成する店舗は現在42軒あり、その多くは第二次世界大戦前から経営を続けている老舗の個人経営店舗である。これらの店舗は柔軟に販売品目を変えながら経営を継続してきた。店舗の土地所有・建物所有・居住が一致する職住一体を特徴とし、経営者は意欲的または無難な店舗経営の継続を望んでいることから、今後も現在の店舗経営が維持されることが推察される。多くの店舗が常連客の割合の高い安定した経営基盤を有する一方で、常連客の高齢化により将来的に顧客が減少する危険を孕んでいる。そこで新幹線開通による外国人を含めた観光者の来店が期待され、多くの店舗では彼らの来店を認識している。しかし本町商店街と飯山駅が離れていることや中心市街地西方に観光者が集中することから商店街を訪れる観光者数自体が少なく、消費金額も少ないという課題を有している。

本町商店街では新幹線開通を前に一度失われた中核的集客施設を再興し、アーケードの整備に端を発した景観形成を行い、ハード面での観光者誘致の体制は整ったといえる。ソフト面でも雪まつりなどの催事を開催することで商店街への誘客を図り、飯山商圏の住民向けには六斎市などを開催してコミュニケーションの場を創出している。他方で観光者の需要に対応した品目を扱う店舗は少なく、観光ボランティアガイドや商店街内の観光資源の解説板は不十分であり、観光者の誘致という面では課題も残る。

日本創成会議が2014年に発表した、いわゆる「増田レポート」とそれを基にした増田(2014)は、日本のおよそ半数に相当する896市区町村が「消滅可能性自治体」であると発表し、飯山市もその

1つとして名指しされた。しかしながら、「増田レポート」は単純な人口推計に基づいて消滅可能性を指摘したにすぎず、近年の人口の都心回帰やまちなか居住の動向、移住者支援、企業誘致の取り組みを考慮したものではない。飯山市街地は東西方向の自然障壁によって都市域の拡大が抑制されたことから南北方向に長いものの、行政・経済・医療・文化などの生活に必要な機能がコンパクトにまとまっており、まちなか居住に適していると考えられる。高速交通網が整った飯山市には新幹線開通を期に飯山市出身者が帰省する姿が多くみられており、彼らの帰郷・定住による人口回帰を期待できるかもしれない。また日本の流通業は近年、小商圏時代にあるという指摘がある。小商圏とは、社会の変化に伴う商圏の縮小という側面だけでなく、消費者の多様化による市場のモザイク化ないし細分化をも含む概念である（箸本、2013）。本町商店街の個人経営店舗では従来から

顧客とのコミュニケーションを重視し、きめ細やかなサービスを提供してきたことから、小商圏への適応可能性を十分に備えている。

足立（2013）はイギリスにおける商店街再生の方法として観光による商店街再生と観光に向かない都市における商店街再生の2種類を提示している。この中で観光による商店街の再生を目指すのであれば、都市の個性を大事にすることが重要であると述べている。本町商店街における商店街活性化の取り組みは雪や城下町といった地域の個性に準拠したものであり、商店街再生成功への道をたどっているといえる。しかしながら、商店街活性化の活路を本当に観光に求めるとするならば、飯山駅から本町商店街に至る動線の確保、商店街の各店舗における観光者の受け入れ体制の整備、商店街への誘客を推進する観光ボランティアガイドの育成が必要となるであろう。

本研究の遂行にあたり、飯山市本町商店街協同組合代表理事の滝澤博信氏および本町商店街の皆様、飯山商工会議所相談課課長の内堀真知子氏をはじめ、飯山市商工観光課、飯山市まちづくり課、飯山駅観光案内所の方々並びに六斎市参加者の皆様に多大なご協力を賜りました。謹んで御礼申し上げます。

【注】

- 1) 本研究では、商店が集積する街としての商店街を「本町商店街」、街路としての商店街を「商店街通り」、商店街を運営する組織としての商店街を「本町商店街組合」と呼称する。
- 2) 気温・降水量はアメダスの飯山観測所における1981～2010年の平年値、積雪深は1983～2010年の平年値による。
- 3) 江戸時代の飯山街道は愛宕町の仏壇通りから東に折れて本町に至り、上町で東に折れて南進する1本の鉤状の街道であったが、近代以降に鉤状の屈曲部から南北方向へ道路が延伸され、現在では仏壇通りと商店街通りは別の南北軸の街路を形成している。
- 4) 当時の上町は、現在の上町商店街よりも東側の通りを中心に形成された。
- 5) ただし本町の住民への聞き取りによれば、高度経済成長期頃まで仲町周辺は沼沢地が広がっており、商店はまばらであった。
- 6) 飯山駅の中央口である千曲川口側の建築部分が飯山市の設置した飯山駅観光交流センターに相当する。なお飯山線ホームの新幹線駅側への移設費用は飯山市が負担した。
- 7) 各駅の乗車人員 2015年度（JR東日本）。<https://www.jreast.co.jp/passenger/index.html>（最終閲覧日：2017年1月29日）。
- 8) 飯山駅1037人降車、スキー客8割 飯山市が調査（北陸・信越観光ナビ）。<http://www.hokurikushinkansen-navi.jp/pc/news/article.php?id=NEWS0000005727>（最終閲覧日：2017年1月29日）。
- 9) 地形図上での計測によると、本町商店街の中央に位置する「市役所入口」交差点から旧飯山駅までの

- 道のりが約720m、現在の飯山駅までが約1,030mであり、およそ300m遠くなった。なお、飯山駅から本町商店街へは路線バスが乗り入れている。
- 10) 加盟店の内訳は商業が27店舗、サービス業が15店舗となっている。一部の店舗は本町商店街通りから少し離れたところに立地する。
 - 11) 日曜日に休業する理由としては、顧客が飯山市外へ買い物に出かけるため来店者がいないこと、取引先が休業日であることを挙げる経営者が多く、経営者自身も市外へ出ることが多いという。
 - 12) 本研究では、経営者が現状維持を望んでいる場合を「無難に継続」とし、現状よりもサービスや品質の向上を図り、新規顧客の獲得努力を行っている場合、「意欲的に継続」とした。
 - 13) ただし、多くの観光客はウィンドウショッピングにとどまり、購入する場合でも消費金額は少ないため、経済効果はあまりみられない。
 - 14) 肴町は本町の北西に位置する地区である。
 - 15) 火災により史料を焼失したため、正確な代数は不明である。
 - 16) 地域振興整備公団の出資条件は、市域人口5万人以上、商圏人口10万人以上であったため、商圏人口が5万人程度の飯山市は条件に適合せず、出資を受けられなかった。
 - 17) 本町商店街には青果店と精肉店は立地していたが、鮮魚店がなかったため、商店街内で魚介類を購入することが不可能となった。
 - 18) 2016年現在は毎月6の付く日のみ開催している。
 - 19) 飯山ふるさと案内人によるモデルコースは、飯山駅を出発して沿道の寺社や仏壇通りの歴史の解説を受けながら散策し、高橋まゆみ人形館前で終了する2時間のコースとなっており、商店街通りには立ち寄らない。ただし、利用者の求めに応じてコース変更が可能である。
 - 20) 同学が地域連携事業を模索していた2004年に、同学に近いJR飯田橋駅前に飯山市東京事務所が立地していたことが縁となって実現した。
 - 21) 地域間の人的交流としての側面が強く、個人経営店舗の経営改善や商店街活性化に向けた取り組みなど、実務的な交流は実現していない。

【文 献】

- 足立基浩 (2013) : 『イギリスに学ぶ商店街再生計画』 ミネルヴァ書房。
- 飯山市誌編纂専門委員会編 (1995) : 『飯山市誌 歴史編 (下)』 飯山市誌編纂委員会。
- 飯山市経済部商工観光課 (2014) : 『平成25年度版 飯山市の商工業と観光の概要』 飯山市経済部商工観光課。
- 飯山市総合学習センターふるさと館編 (2007) : 『飯山城と城下町』 飯山市総合学習センターふるさと館。
- 飯山市本町商店街協同組合 (2016) : 飯山本町商店街。 <http://www.iiyama-honmachi.com/> (最終閲覧日: 2017年1月29日)。
- 五十嵐篤 (1996) : 富山市における中心商店街の構造変化－経営者意識との関連性を含めて－。人文地理, 48, 468-481。
- 池澤 寛 (2002) : 『市民のための都市再生 商店街活性化を科学する』 学芸出版社。
- 内山幸久 (2009) : 長野盆地の農業。斎藤 功・石井英也・岩田修二編 : 『首都圏II』 朝倉書店, 371-375。
- 片柳 勉 (2009) : スキーと伝統産業の生きる飯山市。斎藤 功・石井英也・岩田修二編 : 『首都圏II』 朝倉書店, 380-381。
- 加藤直美 (2012) : 『コンビニと日本人－なぜこの国の「文化」となったのか－』 祥伝社。
- 社団法人飯水教育会 (1999) : 『飯水の地域社会II ～その現状と変貌～』 社団法人飯水教育会。
- 杉村暢二 (2000) : 『中心商業地の構造と変容』 大明堂。
- 根田克彦 (1999) : 商業地域。奥野隆史・高橋重雄・根田克彦 : 『商業地理学入門』 東洋書林, 63-96。
- 箸本健二 (2013) : 小商圏時代とは何か。土屋 純・兼子 純編 : 『小商圏時代の流通システム』 古今書院, 1-14。
- 蛭田浩一郎 (1933) : 信州飯山町を中心としたる物資の流動に就いて。大塚地理学会論文集, 1, 487-519。

- 福井一喜・金 延景・上野李佳子・兼子 純 (2016)：地方都市の中心商店街における新規事業の創出－長野県佐久市岩村田本町商店街の事例－. 都市地理学, **11**, 59-70.
- 増田寛也 (2014)：『地方消滅 東京一極集中が招く人口急減』中央公論新社.
- 安倉良二 (2007)：愛媛県今治市における中心商店街の衰退と仲間型組織による再生への取り組み－「今治商店街おかみさん会」の活動を中心に－. 経済地理学年報, **53**, 173-197.

